

令和 6 年度 地域・日本の新たなレガシー形成事業

『瀬戸内産業芸術祭「S・A・I」～Setouchi Art & Industry～』 調査報告概要

事業名	令和 6 年度 地域・日本の新たなレガシー形成事業
地域名	『瀬戸内産業芸術祭「S・A・I」～Setouchi Art & Industry～』 報告書
玉野市概要	岡山県玉野市
	中心部にある宇野港は、岡山県の玄関港であり、本州と四国を結ぶ海上交通の要衝として発展。造船業を中心とするものづくりの町として栄え、近年は瀬戸内国際芸術祭の影響もあり、アートを感じられる街になってきた。第3次産業へもシフトしている。
	キーとなる5つの地域
	● みやま公園(来場者数100万人／宇野港周辺／田井工業地域／玉周辺(造船)／山田地域(製塩))

目的
● 1. 瀬戸内産業芸術祭の継続支援と合意形成
玉野市や瀬戸内海エリアの魅力を高めるため、令和8年度の「瀬戸内産業芸術祭」開催を視野に、関係者が一体となって詳細な計画づくりと具現化を進める。
● 2. 中長期的な来訪者増加・消費向上への寄与
オープンファクトリーなどの施策を実施し、多島美と製造業が織りなす“ものづくり”を体験できる新たな観光資源を形成。これによって国内外からの旅行者を呼び込み、地域の経済活性化につなげる。
● 3. 調査・検証を基にした具体的手法の検討
● 観光客動態調査や経済合理性検証により、瀬戸内産業芸術祭の実現性を把握。
● モニターツアーや検討会を通じて、実施方法や参加基準などを具体的に固める。

瀬戸内産業芸術祭：実現可能性調査の検証内容及び結果

満足度8.26、推薦度8.29の評価（アンケート実施結果より）にて終えたモニターツアー。

今後さらなる参加企業の拡大を目指す。

観光動態調査、経済合理性調査、参加者と参加企業へのアンケートから、玉野市を起点に瀬戸内に広がるサステナブルな分散型美術館を目指す必要要素をまとめた。

運営	収益	● 企業：観光客が常に数社から選択できる常設企業の規模感	● 参加企業のアート作品を展示した常設展示施設（有料）
		● 貴重価値のある期間限定企業	● 企業からの協賛（ヒト・モノ・カネ）
		● 再訪したくなる定期的な展示のリニューアル	● 関連企業：参加企業の関連に加えてSAIに関わる企業を含む
		● アプリ：チケット・交通の販売と予約をセットで提供	● 地域の企業：地域活性化を望む企業
		● 参加企業を表現したグッズ販売によるブランディングと収益化	※参加企業の協賛金は、自社のアート制作とガイド等へ使われるので別途協賛提供
	費用	● 少人数による運営：サイネージとアプリ	● 宣伝費削減：客、メディアがSNSで紹介（拡散したくなる話題性）
企業		● 地域貢献の見える化：市民が何度も再訪問、企業を誇りに感じる	● 費用以上の効果を得られる実感
		● 協賛金の使用用途の明確化	● メディア・SNS露出調査の広告換算金額のフィードバック
		● 低負担による参加	● 観光客からのアンケートによるフィードバック
		● 参加時の準備負担を下げるための十分な準備期間	● 参加による社員への効果
		● 継続参加の稼働費用の負担を下げる柔軟な参加方法	● 社員の成長と自立
		● 関連企業の協賛（ヒト・モノ・カネ）	● アート/プロデュースによる社員の視点の変化と責任感向上
		● 参加企業の安全性の確保（情報漏えい対策と風評被害対策）	● 帰属意識の向上
		● ツアー参加条件設定等	● チームビルディング：他部署とのつながりと連携
		● ガイド/運営/対応の手引等	● プロデュースされることによる外へ誇れる自社の強みのきづき
		● 採用活動へ効果	● ツアー客からの生の声による自社の再認識
		● 企業の魅力が伝わるアートが広告塔	※参加基準について：モニターツアー実施後のヒヤリングより、事業活動・組織にメリットが大きい結果を得られ、瀬戸産芸による地場産業の活性化に向けて、参加基準は設けずに、参加しやすい環境を整えることに注力する結論になった。
		● SNSから企業について興味喚起され採用ページへのスムーズな導線	
行政		● 迎え入れる環境整備 SAIと瀬戸芸の2つの芸術祭を支える	● 国や県と連携した支援：PR、補助・助成金、負担金など
		● ゲートウェイ：到着した場所から観光	● JR西日本と連携した訪日外国人の誘客と送客
		● サイネージ：統一デザインによる街のブランディング	● 参加企業の募集：推進委員会と連携
		● 公共交通、港：移動手段も観光資源	● 地域の公共団体と連携した運営支援：ボランティア、PR活動
		● 宿泊施設・飲食施設：新規事業者誘致と支援	● 連携したイベントの開催

瀬戸内産業芸術祭／オープンファクトリーモニターツアー

産業 is アート

造船、石材業、鉄鋼業、生地、縫製、食、海、そして島々。
産業と美しい景色が交わり文化を成す、世界で唯一無二の土地、瀬戸内。
この地を、アーティストの視点を通して巡る旅、それが瀬戸内産業芸術祭です。

産業芸術とは

産業に気づきを生む、非日常的視点

「芸術」は日常の風景を非日常的な視点で見せてくれます。産業芸術は、特定の産業の本質的な役割や仕組みを、違った視点で体感するための芸術です。産業の現場とアーティストの掛け合わせで、これまで脚光を浴びにくかったものづくりの知恵や思想を芸術として表現し、見る人へ新しい気づきを与えます。

ツアー概要

瀬戸内の塩・造船・エネルギーを
めぐる旅

瀬戸内産業芸術祭モニターツアーの参画企業は合計3社。

瀬戸内の綺麗な海、その海水を純度高く、我々が口にする食塩に加工しているナйкаイ塩業。古くから造船の街として栄えるこの街で、船の心臓部であるエンジンを作り続けている宮原製作所。自然エネルギーを世界中に普及させるため、蓄電池を製造しているパワーエックス。この3社の工場を、本ツアーでは体験する。

それぞれの工場ではその産業の特色をアーティストの視点で再構築した、産業芸術が展示されている。芸術に触れながら、各企業のものづくりに潜む美しさを体感。また、受付からバスの待機場所や乗降、施設間のルートや移動時間、施設内の見学ルート上の安全性を確認検証。

オープンファクトリー検討会により議論し
安全性にも考慮したツアーを開催

- 開催期間：2025年1月29日～31日
- 参加者：183名
- 玉野市民：15名
- 参加企業：ナйкаイ塩業株式会社
株式会社宮原製作所
株式会社パワーエックス

モニターツアー開催エリア

ナйкаイ塩業株式会社

「時の輪郭」

コンセプト

塩の純度

ナйкаイ塩業株式会社

× 山本基

株式会社宮原製作所

「呼吸する椅子」

コンセプト

造船の精度

株式会社宮原製作所

× SYMBOL PLUS

株式会社パワーエックス

「調整力」

コンセプト

エネルギーの今と未来

株式会社パワーエックス

× SAI

モニターツアー時の様子／ナйкаイ塩業

呼吸する椅子に座りアートを体験／
宮原製作所

調整力のアートを堪能する参加者／
パワーエックス

令和6年度 地域・日本の新たなレガシー形成事業『瀬戸内産業芸術祭「S・A・I」～Setouchi Art & Industry～』調査報告概要

開催に向けた計画



経済合理性調査

1.年度別「収入合計」

年度	2026	2027	2028	2029	2030
日数	120	150	180	200	200
常設企業数	10	15	20	25	30
限定参加企業数	5	10	15	20	25
試算人数(万人)※1	1	1.8	2.8	3.5	4.8
収入合計※2 (百万円)	85	152	237	297	406

- 【試算設定】
- 交通パッケージチケット価格（仮）※
 - 平均8,800円/枚
 - ※チケット価格は参加企業が決定後、周遊プランを検討し交通費を含め決定予定
 - 常時開催企業の受入可能日数は、SAI開催日数のうち週2～3日程度と設定して年間の最大受入可能人数を試算
 - 1.企業ごとの「収容キャパシティ」に基づく理論上の合計値。条件により変動あり
 - 同じグループが1日で複数社（1～3社）を回る場合、各企業での受け入れ枠が同時に必要となる。
 - バスや船の運行本数・移動時間による制約
 - 最大値ほどには稼働しきれない

経済波及効果

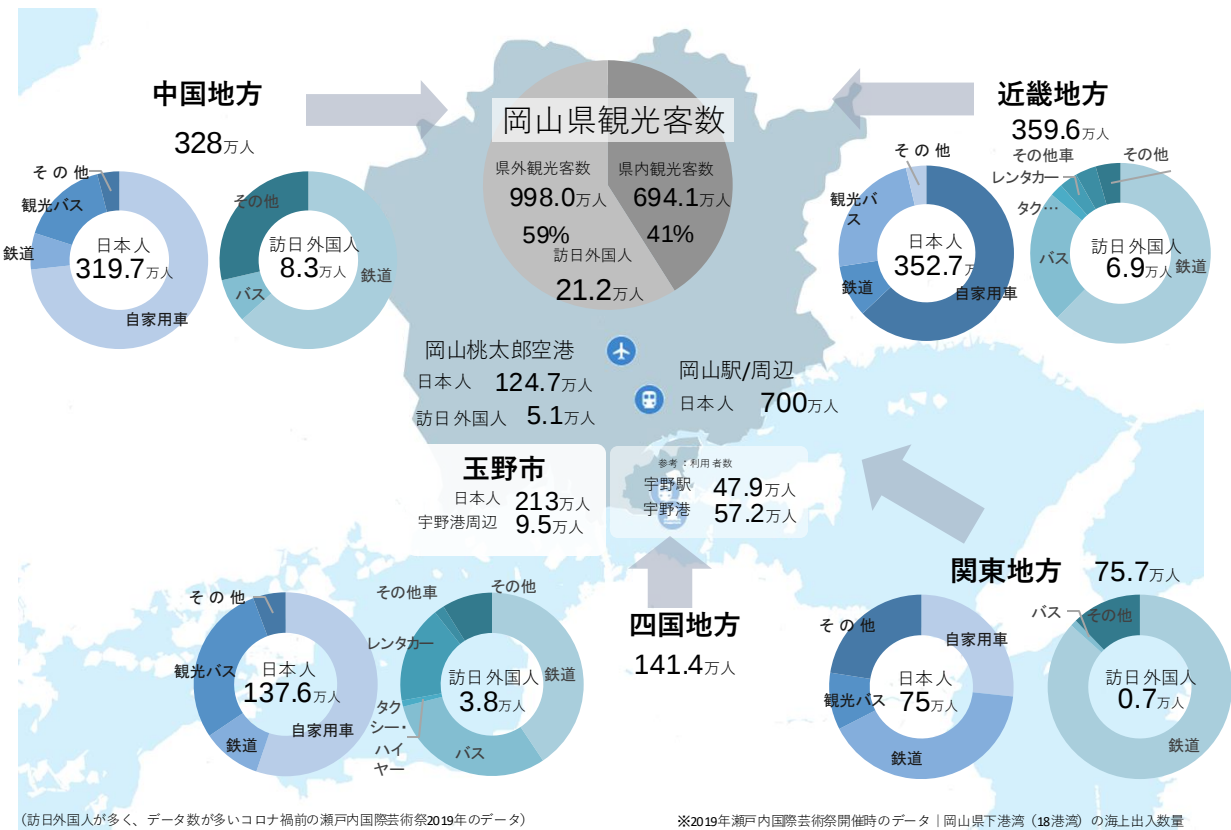
2026年経済波及効果の測定結果

	直接効果	第1次波及効果	第2次波及効果	総合効果
生産誘発額	198	64	45	307
うち粗付加価値誘発額	113	37	29	179
うち雇用者所得誘発額	60	16	12	88
就業誘発者数	27	4	3	34
うち雇用誘発者数	22	4	3	28

2030年経済波及効果の測定結果

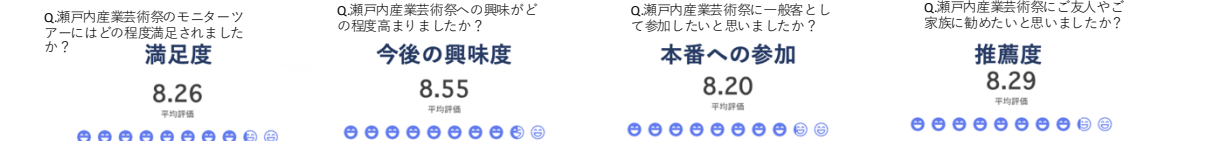
	直接効果	第1次波及効果	第2次波及効果	総合効果
生産誘発額	951	307	214	1,472
うち粗付加価値誘発額	540	177	140	858
うち雇用者所得誘発額	286	77	57	420
就業誘発者数	127	21	16	165
うち雇用誘発者数	104	18	14	135

観光動態調査



参加者の反応と分析

モニターツアー参加者にアンケートを実施。様々な業種、各地からお越し頂いた183名の内、129名から回答を得られた。



「工場やものづくり」に対する美意識・芸術的視点の獲得

- “工場の無機質な風景が「アート」として見えるようになった”
- “職人やエンジニアの技術が“作品”として映る”

「産業×芸術」が新たな観光・学びの可能性を拓く

- “工場見学＝“無料PR”ではなく、観光・文化体験として成り立つという発見”
- “地域の歴史・文化を学ぶきっかけ”

■玉野市在住の参加者に関するアンケート分析結果／地元住民の感じたこと・今後の期待

- 地元産業への誇り・再発見
 - 「造船や塩づくりなど、身近にある企業の技術力に驚いた」「工場見学は大変面白い」
- 市の活性化・交流人口増
 - 「もっと全国や海外にも知られてほしい」「玉野市のイメージアップにつながるイベントに期待」
 - 「まち自体が元氣になり、企業が人材確保や販路拡大につなげていけば嬉しい」といった地域振興への期待が大きい。
- 継続的な開催・さらなる拡大
 - 「モニターツアーだけで終わらず、定期的に様々な企業を公開してほしい」
 - 「子ども向けや学生向けプログラムを取り入れて、将来の就職にも繋がるような仕掛けを作してほしい」
- スタッフ・ガイドの熱量
 - 「案内してくれた担当者がとても丁寧で、自社愛を感じられた」
 - 「企業側もアートとの連携に前向きなのが伝わり、見ていて楽しかった」という肯定的な意見が多い。